

単元名 かん字の 学しゅう(一)

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 漢字の基本点画の書き方を理解して、正しく書くことができる。
 (2) 漢字の書き順や基本点画の書き方を考え、理解することができる。
 (3) 正しい筆使いを意識して漢字を書こうとしたり、漢字を探そうとしたりする。

標準的な展開例

01020202_001

【教材名】一・小・人／日・七・子／田・二・目／三・川・十 (P.26～P.33)

【準備等】水書板、水書用紙、水書用筆、拡大文字、分解文字、練習用紙

| 学 習 活 動 | 留 意 事 項 など |
|--|---|
| <p>1～2 「とめ」「はね」「はらい」に気を付けて、『一』『小』『人』を書く。 ★「とめ」「はね」「はらい」に気を付けて書こう ○『一』『小』『人』を試し書きし、課題をつかむ。</p> <p>○教科書を指でなぞり、「とめ」「はね」「はらい」の書き方を確かめる。</p> <p>○終筆の書き方に気を付けて『一』『小』『人』を練習する。 ○課題をもう一度確かめ、『上』『月』『木』などを練習する。 ○『一』『小』『人』をまとめ書きし、自己評価する。</p> <p>○教科書P.44の「かん字 のひょう」から、「とめ」「はね」「はらい」のある字を探し、発表する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 教科書P.26～P.27の学習の流れを確認する。 漢字の終筆の学習である。 拡大文字や毛筆の分解文字を提示し、「とめ」「はね」「はらい」の筆使いを視覚的に確認する。 「右払い」(すうっ ぴたっ すうっ)のように音声化し、声を出しながら書かせる。 教科書の挿絵を使用して、「とめ」「はね」「はらい」を動きで表現させ、理解を促すとよい。 【評】終筆を音声化したり、動作化したりして書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 水書用筆を使用して、終筆の感覚を体感させるとよい。 終筆を意識するように声掛けをする。 【評】作品や自己評価を通して、終筆の書き方に関する「知識・技能」を評価する。 漢字の「とめ」「はね」「はらい」の部分を丸で囲み、終筆を意識付ける。 1年生で学習する80字の漢字の中で終筆が「とめ」「はらい」だけの文字がある。 「とめ」だけの文字 「一、王、下、玉、五、口、三、山、七、車、十、出、上、正、早、中、田、土、二、日、目」 「はらい」だけの文字 「人、入、八」 【評】漢字を探す活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 漢字の送筆の学習である。 |
| <p>3～4 「折れ」「曲がり」「そり」に気を付けて、『日』『七』『子』を書く。 ★「折れ」「曲がり」「そり」に気を付けて書こう ○『日』『七』『子』を試し書きし、課題をつかむ。 ○「折れ」と「曲がり」の違いを確かめる。</p> <p>○「曲がり」と「そり」の違いを確かめる。</p> <p>○送筆の書き方に気を付けて、『日』『七』『子』を練習する。 ○課題をもう一度確かめ、『口』『九』『字』などを練習する。 ○『日』『七』『子』をまとめ書きし、自己評価する。</p> <p>○教科書P.44の「かん字の ひょう」から、「折れ」「曲がり」「そり」のある字を探し、書き出す。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 正しい『日』と「折れ」の部分を「曲がり」で書いた『日』を提示する。 教科書P.30の挿絵を使用し、動作化させたり音声化させたりして理解を促す。 第1学年で学習する「曲がり」を含む漢字は「花九空見四七先」の7文字、「そり」を含む漢字は「学気子字手」の5文字である。 「そり」では徐々に方向を変え、最後には元の縦のラインの位置に戻ってくることを補足説明する。 正しい書き順も意識させる。 【評】作品を通して、漢字の送筆についての「知識・技能」を評価する。 【評】漢字を探す活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 |
| <p>5～6 文字の概形の違いに気を付けて、『田』『二』『目』を書く。 ★文字の形に気を付けて書こう ○『田』『二』『目』を試し書きし、課題をつかむ。</p> <p>○文字の形について話し合い、理解する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 教科書P.31の文字の周りを囲ませ、形に違いがあることに気付かせる。 色画用紙を正方形や長方形に切ったものを文字に重ね合わせて、概形を捉えやすくする。 |

| | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○『田』『二』『目』を練習する。 ○『白』『八』『月』『田うえ』『四まい』をまとめ書きする。 ○互いに試し書きと比べ達成点を見付け、成果を賞賛し合う。 <p>7～8 書き順の原則に気を付けて、『三』『川』『十』を書く。</p> <p>★正しい書き順で書こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○『三』『川』『十』を試し書きし、課題をつかむ。 ○書き順の原則を話し合い、理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ○書き順に気を付け『三』『川』『十』を練習する。 ○課題をもう一度確かめ、『六』『八』『土』『なみ音』『竹ぶえ』『ねん土』などを練習する。 ○『三』『川』『十』をまとめ書きし、正しい書き順で書けたかを自己評価する。 ○正しい書き順で書けているか互いに見合い、気付いた点を発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「四角」「横長」「縦長」という言葉を意識しながら、概形をとらえて書かせる。 ・「四角」「横長」「縦長」という言葉を意識しながら、概形を捉えて書かせる。 ・文字の概形を書き入れた練習用紙を用意する <p>【評】作品を通して、概形の違いに関する「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書き順の原則は単なる法則ではなく、字形と密接に結び付くことを押さえる。 ・教科書を見ないで書き、その後で書き順の番号を記入させる。 ・原則（上から下へ・左から右へ・横から縦へ）が当てはまる例をできるだけ多く示し、理解の定着を図る。 <p>【評】書き順の原則を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい書き順で書けているかどうか、個別に確認をする。 ・平仮名や片仮名の書き順も合わせて復習するとよい。 <p>【評】正しい書き順で書いたかを確認する活動を通して、書き順に対する「知識・技能」を評価する。</p> <p>【評】互いに見合って、気付いたことを発表する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> |
|--|--|

【 備 考 】